

「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2025年度）

暮らしお（塩と暮らしを結ぶ運動）の賛助会員であるたばこと塩の博物館（東京都墨田区）では、毎年、夏休みの時期に「夏休み塩の学習室」が開催されています。

通算46回目となる2025年の夏休み学習室のタイトルは「海と塩のハテナ」（7月19日（土）～8月24日（日））。テーマは、海と塩についての“いろんな答えさがし”です。「海はなに色？」のように、一つの質問であっても、答える人の「見方」によっていくつもの答えが出てきます。会場では、海と塩についての合計8つの質問と、それぞれの「見方」で答える人や動物が登場します。

例えば「塩はなに色？」という質問には、理科の先生の答えは「無色透明」となりますが、社会の先生の答えは「いろいろ」となります（世界でとれる岩塩には、様々な色のものがあるため）。また国語の先生は、「讃岐三白（塩、砂糖、わた）」にちなんで「白」と答えるでしょう。このように、子どもたちに「ものの見方は一つではない」ことに気づいてもらうことを目指しました。

また、同館では、「海と塩のハテナ」のほか、毎年恒例の「塩の実験教室」や「体験コーナー」も開催され、どちらもとても好評でした。

今夏も、「海と塩のハテナ」の会場に、暮らしおの熱中症啓発のポスターを掲示して、熱中症への注意を呼びかけました。また、暮らしおのウチワも設置し、ご自由にお持ちいただきました。

例年以上の猛暑となった今夏、夏休み学習室「海と塩のハテナ」には、期間合計で約14,000名の来場がありました。暮らしおのウチワはとても人気ですぐになくなってしまいましたが、約1,500枚をお持ちいただき、会場内や帰路の熱中症対策に活用いただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2024年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（暮らしお賛助会員）では、2024年7月20日（土）から9月1日（日）まで、「第45回夏休み塩の学習室 買い物ゲームで塩さがし！2024」が開催されました。毎年恒例の「夏休み塩の学習室」ですが、「買い物ゲーム」は、中でも人気の高い企画です。

塩は、家庭で料理に使うだけでなく、その性質がさまざまな加工食品をつくるのにも使われています。食用以外でも、塩そのままの形で、あるいは苛性ソーダや塩素などに形を変えて、私たちの身の回りにある色々なものをつくるのに使われています。

会場内のスーパーマーケットには、塩を使ってつくられたいろいろな品物が並んでいます。その中から5つを選び、レジに運んでバーコードを読ませると、解説と得点が表示されます。高得点を出すには、一見すると塩とは関わりのなさそうな、意外なものを選ぶのがポイントです。5商品の合計得点が2,000点を超えると、レジから出力されるレシートに花丸が印刷されますが、塩が姿を変えた苛性ソーダや塩素などを使ってつくられた品物を複数選ばないと2,000点を超えられない設定になっています。

ゲーム形式で高得点を目指して繰り返すうちに、いつの間にか、食べるだけではない意外な塩の使い道を数多く学んでいくことになるという、夏休みの自由研究にもぴったりの企画です。

昨年に引き続き猛暑となった今年も、会場には、暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示し、熱中症への注意を呼びかけました。また、暮らしおのウチワも設置し、ご自由にお持ちいただきましたが、ウチワは大人気で、すぐ無くなってしまったとのことでした。

今年の「夏休み塩の学習室」には、期間中、合計で約13,600名の来場がありました。うち約600名の方にウチワをお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。(2023年度)

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（くらしお賛助会員）では、7月21日（金）から8月27日（日）まで、「第44回夏休み塩の学習室 なにしてる？ からだの中の塩」が開催されました。

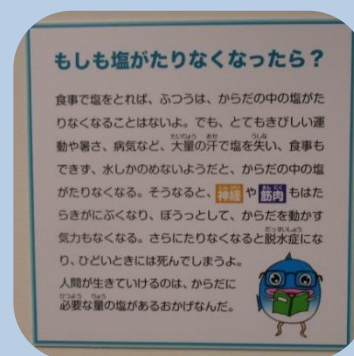
毎年恒例の「夏休み塩の学習室」ですが、ここ数年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、様々な配慮がなされてきました。今回も、昨年までよりは緩和されたものの、人気の実験イベント「塩の実験室」を完全予約制とし、参加人数を絞るなどの配慮のもと、行われました。

「なにしてる？ からだの中の塩」は、からだの各部位がどのような働きをしているのか、そして、そこに塩がどのように関わっているのかを、パネル展示や動画で学ぶという企画です。

例えば、まず血液が体内でどのような働きをしているのかを、中央の大きな人体を模したパネルで学んだあと、血液における塩の働きを、サイドの展示で動画を交えて詳しく学んでもらいます。私たちが生きていく上で塩が欠かせないものであることを、お子様にも分かりやすく紹介する内容で、夏休みの自由研究にもぴったりです。

今回も、会場には、くらしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示し、熱中症への注意を呼びかけました。また、くらしおのウチワも設置し、ご自由にお持ちいただきましたが、猛暑の中、ウチワは大人気で、すぐに無くなってしまったそうです。

新型コロナ禍に関する規制が緩和され人出も多かった今回は、期間中、合計で約13,700名の来場がありました。そのうち約800名の方にウチワをお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2022年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（暮らしお賛助会員）では、毎年夏休みに「夏休み塩の学習室」を開催しています。第43回となる今夏は、「動物にきこう！ 塩のひみつ2022」が、7月21日（木）から8月28日（日）まで実施されました。

今年も引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、来館時の検温や、館内でのマスクの着用、また来場者が手に触れる機器にアルコールタオルを設置し、都度の消毒をお願いするなどの配慮の上で実施されました。また例年人気の実験イベント「塩の実験室」も完全予約制とし、参加人数や実施回数を絞って行われました。

「動物にきこう！ 塩のひみつ」では、色々な動物たちと塩の関わりを、パネル展示と音声で学んでいきます。

体の中で塩が大切な役割を果たしていることは人間も動物も同じですが、具体的な塩との関わり方は、動物によって異なります。「塩をほしがる」動物もいれば、「塩をほしがらない」動物や、「塩が多すぎて困っている」動物もいます。それぞれの動物が、野生下あるいは動物園で、どのように塩と関わっているのかを学ぶことができる、夏休みの自由研究にもぴったりの内容です。

今夏も、会場には、暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示し、熱中症への注意を呼びかけました。また、暮らしおのウチワも設置し、ご自由にお持ちいただきました。

期間中、合計で12,000名弱の来場がありました。そのうち約1,500名の方にウチワをお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2021年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（塩と暮らしを結ぶ運動賛助会員）では、毎年恒例の「夏休み塩の学習室」の第42回目として、今夏は、「塩づくり！ところかわれば何かわる？」が、7月21日（水）から8月29日（日）まで開催されました。

昨年に引き続き今年も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、来館時の検温や、館内でのマスクの着用をお願いするなどの配慮の上で実施されました。また例年人気の実験イベント「塩の実験室」も完全予約制とし、例年よりも参加人数や実施回数を絞って行われました。

テーマ展示「塩づくり！ところかわれば何かわる？」は、世界のいろいろな場所で塩づくりをしている人たちがコンピューターの中で質問を待っているという設定で、「何から塩を作るの？」「どうやって作るの？」「なぜそのやり方なの？」などと質問すると、その作り方の理由や工夫について教えてくれるという趣向の企画でした。

現代の日本では、塩づくりの現場はそれほど身近なものとはいえないのではないでしょうか。また日本には、世界の多くの国から塩が輸入されています。今回の学習室は、日本や世界の塩づくりについて詳しく知ることのできる、大変よい機会になったといえるでしょう。

会場では、サンリオキャラクター「ポムポムプリン」とくらしお（塩と暮らしを結ぶ運動）公式キャラクター「塩イルカ」のコラボによる熱中症対策啓発ポスターを掲示し、時節柄、熱中症への注意を呼びかけました。また、くらしおのウチワも設置し、ご自由にお持ちいただきました。

期間中、合計で7,906名の来場があり、そのうち約1,200名の方にウチワをお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2020年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（塩と暮らしを結ぶ運動賛助会員）では、毎年、「夏休み塩の学習室」が開催されています。第41回目となる今年は、7月21日（火）から8月30日（日）まで、「学んでみよう！塩のつかいみち」が開催されました。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、例年のような参加型の展示ではなく、実験イベントも行わない形での開催となりました。また、できるだけ少人数での来館や、館内でのマスクの着用をお願いするなどの配慮もなされました。

塩は、食べ物の味つけだけではなく、各種の工業にも使われています。塩の形のままで使われることもあれば、「か性ソーダ」「塩素」などに「変身」させてから使われることもあります。今回の学習室では、塩がないと作れないさまざまな品物を展示し、それぞれの品物を作るのに塩がどのように使われているのかを、パネルで説明しました。まさに、食べるだけではない「塩と暮らしの関わり」を伝える内容といえるでしょう。

そして、「学んでみよう！塩のつかいみち」の会場には、塩と暮らしを結ぶ運動のウチワを設置し、ご自由にお持ちいただきました。

新型コロナウイルスの影響で実験イベントや参加型展示も取りやめた上、小中学校の夏休みも短縮されたため、「学んでみよう！塩のつかいみち」への来場者は約2,500名と少数で、例年の1/6ほどにとどまりましたが、来場された方は、熱心にパネルをご覧になっておられました。また、運動のウチワは、約150名の方にお持ちいただき、熱中症対策に役立てていただきました。



「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2019年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（塩と暮らしを結ぶ運動賛助会員）では、恒例の「夏休み塩の学習室」として、40回を迎える今年は、「さぐってみよう！ 海のめぐみ」が開催されました。

これは、様々な食品や料理に含まれている「海のめぐみ」を探していく体験イベントで、例えば「ゼリー菓子」を選ぶと、原材料の「マクサ（テングサ）」が指示され、会場内に展示されている模型や標本の中から「マクサ」を探し、その説明を読んで、クイズに答える、というものです。

また、会場には「塩ゾーン」も設けられ、国内外のさまざまな塩について、展示を見ながら、どこかの海水から、またいつの海水から（岩塩や湖塩も、かつては海水でした）できたものかを調べて、クイズに答えていきます。

7月20日（土）から8月25日（日）までの期間中は、自由研究のヒントを求める親子連れなど、連日、大勢の来場者で賑わいました。館内は空調が効いていますが、梅雨も明け、一歩外に出るととても暑い日が続きました。

そこで、たばこと塩の博物館では、2階の「さぐってみよう！ 海のめぐみ」の会場及び1階のミュージアムショップに塩と暮らしを結ぶ運動のウチワを設置し、自由にお持ちいただくこととしました。

期間中、「夏休み塩の学習室」には約16,000名の来場がありました。その中で、約1,900名の方に、ウチワをお持ちいただき、熱中症対策について改めて知っていただくとともに、帰路の熱中症対策に役立てていただきました。



「さぐってみよう！
海のめぐみ」の会場



会場及びミュージアム
ショップにウチワを設置



「夏休み塩の学習室」でも周知活動を行っています。（2018年度）

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の協力団体であるたばこと塩の博物館（東京都墨田区）では、毎年、夏休み期間に、小・中学生向けの「夏休み塩の学習室」が開催されており、自由研究のヒントを探す親子連れなど、多くの来場者で賑わいます。

第39回となる今年は、動物園を模した会場で、いろいろな動物に話を聞きながら動物と塩の関わりについて学べる「動物にきこう！ 塩のひみつ2018」が開催されています。

それぞれの動物から話を聞いて、その動物が塩を「すごくほしい」のか「それほどほしくない」のかあるいは「ほしくない」のかを当てていき、正解するとカードが貰えます。マルミミゾウ、ジャイアントパンダ、ライオンなど全部で12種類の動物のカードを揃えると、日替わりでペーパークラフトなどの賞品と交換できますが、その一つとして、塩と暮らしを結ぶ運動のウチワも提供しています。

博物館内は空調が効いていますが、一步外に出るととても暑い日が続いているため、ウチワは大変好評をいただいています。扇ぐだけでなく、裏面の熱中症対策情報も、ぜひお読みいただければと思います。

また、夏休み期間には、「動物にきこう！ 塩のひみつ」のほかにも、塩の結晶づくりなどができる「体験コーナー」も開設されていますが、その近くに塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』も設置し、自由にお持ちいただいています。

博物館で動物と塩の関わりを学んだあとは、冊子を読んで、人間の暮らしと塩の関わりについても、ぜひ学んでいただきたいと思います。



塩イルカTシャツを着用したスタッフの皆さん



左：「おはなしマシン」で動物の話が聞けます。
右：正解すると貰えるカードとカードケース



左：ウチワとペーパークラフト
右：『塩と暮らしのあれこれBOOK』

